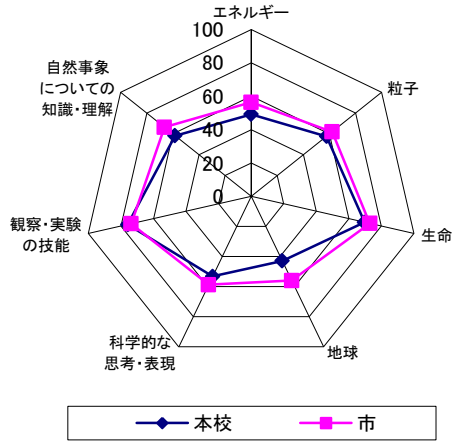


宇都宮市立瑞穂野中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	49.2	56.4	49.9
	粒子	57.7	62.0	57.4
	生命	69.7	72.9	67.1
	地球	42.9	56.0	48.5
観点別	科学的な思考・表現	53.2	58.8	52.1
	観察・実験の技能	75.9	73.8	67.6
	自然現象についての知識・理解	58.3	66.5	61.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	・宇都宮市よりやや低い正答率である。 ○位置エネルギーと運動エネルギーが移り変わる運動で、おもりの速さが最大になる点を指摘する問題では、市より+2.3ポイント高く、観察・実験に時間をかけていた効果と思われる。 ●1, 2年生の内容(光・電流)について、十分に定着していないため、正答率が下がっている。	○授業の中で、科学的な思考・表現を意図した、設問などを多くしていきたい。また、基礎、基本の定着をはかるために、授業のはじめなどに光・音・圧力や電流の内容、運動(速さなど)などの問題練習をする時間を確保していきたい。
粒子	・宇都宮市よりやや低い正答率である。 ○水溶液の問題では、3問中3問が市の正答率より上回っていた。ろ過の適切な方法の問いでは、ほとんどの生徒は正解していた。 ●2, 3年生の内容について、十分に定着していないため、正答率が下がっている。また、知識・理解について、主たる観点の設問で4問のうちすべてで市の正答率より下回っていた。	・3年のイオンの単元では、知識・理解の観点の問題が十分に定着が図られていなかったため、知識・理解が定着できるように指導の工夫をしていきたい。また、粒子の領域では、目に見えないためイメージができない生徒が多い。そのため、可視化を図るために、ICTなどの活用を図っていきたい。
生命	・宇都宮市よりやや低い正答率である。 ○植物のからだのつくりとはたらきでは、光合成に必要な気体についての問題で市の正答率より上回っていた。 ●生命領域の知識・理解の7問の内、市の正答率より6問が下回っていた。知識・理解の定着が十分図られていなかった。	・全学年において、主たる観点の知識・理解の問題で十分な定着が図られていない。そのため、授業の中で、基礎・基本的な問題を繰り返し解くなどの指導の工夫などを図ることにより、定着を図っていきたい。
地球	・宇都宮市より低い正答率である。 ○火成岩がどのようにできたかを、モデル実験によって確かめる問いでは、市の正答率とほぼ同じであった。 ●地球領域が1・2年生の問題であるため、定着が十分図られていない。そのため、市の正答率より低くなっていた。知識・理解の主たる観点の設問で3問のすべてで市の正答率より10ポイント以上下回っていた。	・1, 2年生の内容についての内容が十分定着していない。そのため、3年生の授業の中で、関連する内容の時に復習する時間を設けるなどして、学習内容の定着をはかっていきたい。

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの